

水循環アドバイザー制度 の活用について

1. 水循環アドバイザー制度の概要について	1
2. アドバイザーの登録状況や支援概要について	2
(参考)令和4年度水循環アドバイザー制度による支援概要	3
(参考)令和5年度水循環アドバイザー制度による支援概要	4
3. 令和6年度からの重点的な取組について	5
4. 活用効果等について	6
①大阪府大阪狭山市	8
②愛媛県松山市	10
③福井県大野市	12

1. 水循環アドバイザー制度の概要について

流域マネジメントに取り組む、又は取り組む予定の地方公共団体等を対象に、流域水循環計画の策定・実施に必要な技術的な助言・提言を行う「水循環アドバイザー制度」による支援を実施。

支援の流れ

内閣官房
水循環政策本部
事務局

- 申請書の内容を審査し、支援の決定を通知。
- 申請を踏まえ、必要に応じて、申請団体及び候補者と調整を行った上で、申請団体に候補者を提示。

水循環アドバイザーを
決定

地方公共団体等から
支援を申請

水循環アドバイザー

- 流域マネジメントに関して一定の知識を有する有識者や地方公共団体の職員等



現地派遣やオンライン会議による助言・提言、情報提供等

※現地派遣は最大4日以内、
オンライン会議は最大10時間以内

地方公共団体等
(流域水循環協議会及び
その構成員を含む)

- ・解決困難な課題が発生
- ・知見や助言が必要 等

- ・流域水循環協議会の設立、運営
- ・関係者間の合意形成
- ・課題や目標の設定
- ・地域や住民の関わり方
- ・専門的な知見や経験 等

- 課題の解決、知見の習得等により、流域マネジメントの取組の更なる展開と質の向上に貢献。



2. アドバイザーの登録状況や支援概要について

水循環アドバイザーには、地方公共団体等のニーズや課題に応じた技術的支援を目指し、多様な分野の有識者を登録しており、学識者から地方公共団体の職員まで様々。また、支援内容についても、会議への出席、シンポジウムの開催、課題を抱える部署への助言など、地方公共団体等の要望に応じた内容で実施。

- ・ 計画策定
- ・ 水質改善
- ・ 水利用
- ・ 湧水保全
- ・ 地下水
- ・ 水インフラ
- ・ 地域振興
- ・ 貯留・涵養
- ・ 水環境
- ・ 防災・減災
- ・ 農地・農業
- ・ 生態系
- ・ 水辺空間
- ・ 水文化
- ・ 地球温暖化
- ・ 普及啓発・広報
- ・ 国際連携
- ・ 教育・人材育成
- ・ 民間の取組
- ・ 地域行政
- ・ 広域連携

登録されているアドバイザーの分野



関係者への勉強・講演会



課題を抱える部署への助言



オンラインでの助言

福島県

1. 形式: 現地派遣、会議
2. 内容: 福島県地方流域水循環協議会における、水環境活動活性化に向けた上下流連携の課題と可能性などについての講演及び助言
3. 実施日: 令和5年2月8日
4. 水循環アドバイザー: 名古屋大学大学院 工学研究科 准教授 中村 晋一郎 氏

滋賀県東近江市

1. 形式: 現地派遣、会議
2. 内容: 地下水に関する勉強会における、地下水と森林の関係等についての講演及び助言
3. 実施日: 令和5年1月31日
4. 水循環アドバイザー: 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 蔵治 光一郎 氏

神奈川県秦野市

1. 形式: 現地派遣、会議
2. 内容: 地域の名水等に関する知見を有する住民等に対する、地下水保全の取組や名水を活用した普及啓発事業についての講演及び助言
3. 実施日: 令和5年2月11日
4. 水循環アドバイザー: 筑波大学 生命環境系 教授 辻村 真貴 氏

大阪府摂津市

1. 形式: 現地派遣、会議
2. 内容: 農業用水路を活用した都市域の水環境改善を図るための計画検討に対する助言
3. 実施日: 令和4年11月16日
4. 水循環アドバイザー: 愛媛大学大学院 農学研究科 教授 武山 絵美 氏

福井県大野市

1. 形式: 現地派遣、会議
2. 内容: 流域水循環計画に基づき、効果的に施策を実施していくための教育、普及啓発、広報、情報発信等についての助言
3. 実施日: 令和4年7月1日
4. 水循環アドバイザー: 東京学芸大学 環境教育研究センター 教授 吉富 友恭 氏

愛媛県松山市

1. 形式: 現地派遣、会議、オンライン会議
2. 内容: 流域水循環計画に基づき進めている若年層向けの水に関する教育、普及啓発に関する講演及び助言
3. 実施日: 令和4年11月1、2日、令和4年12月6日
4. 水循環アドバイザー: 特定非営利活動法人 雨水市民の会 理事 笹川 みちる 氏

北海道ニセコ町

1. 形式: オンライン会議
2. 内容: ・地下水観測に関して
・地下水の普及啓発活動に関して
3. 実施日: 令和6年2月16日
4. 水循環アドバイザー: 福井県大野市 暮らし環境部 環境・水循環課
谷口 英幸 氏

福井県大野市

1. 形式: 会議
2. 内容: ・水に関する学習施設の普及啓発・維持に関して
3. 実施日: 令和6年2月9日
4. 水循環アドバイザー: 東京学芸大学環境教育研究センター
教授 吉富 友恭 氏

長野県安曇野市

1. 形式: オンライン会議
2. 内容: ・市水環境基本計画策定に向けた、市民・企業等の取り組み活動等
3. 実施日: 令和6年3月14日
4. 水循環アドバイザー: 神奈川県秦野市 環境産業部 環境共生課
谷 芳生 氏

滋賀県東近江市

1. 形式: 現地派遣、会議
2. 内容: ・地下水に関する課題の共有
・地下水に関心を向ける企業と行政の連携
3. 実施日: 令和6年2月6、7日
4. 水循環アドバイザー: 筑波大学 生命環境系
教授 辻村 真貴 氏

愛媛県松山市

1. 形式: 現地派遣、会議
2. 内容: ・水資源賦存量調査手法について
・水資源の確保に関して
3. 実施日: 令和5年11月29、30日、令和6年2月9日
4. 水循環アドバイザー: 筑波大学 生命環境系
教授 辻村 真貴 氏

高知県香南市

1. 形式: オンライン会議
2. 内容: ・地下水観測に着手するにあたっての流域事項に関して
・地下水涵養対策
3. 実施日: 令和6年1月29日
4. 水循環アドバイザー: 愛媛県西条市 環境部環境政策課
東元 道明 氏

3. 令和6年度からの重点的な取組について

- 令和6年度以降の水循環アドバイザー制度では、以下のような重点的な取組を行い、流域水循環計画の作成等にあたって、地方公共団体に対して技術的支援を積極的に推進。

重点的な取組① 計画策定に係る中・長期的なアドバイザー派遣

【背景】

- 流域水循環計画作成は、計画内容も多岐で、1～2年の検討が必要。
- 地域で計画作成の中心になれる人材がいない可能性。

【方針】

- 流域水循環計画を作成しようとする地方公共団体に対し、例えば、流域水循環協議会のアドバイザーとして、最大2年間で6回(年間3回)※1派遣。
- これにより、計画作成に対し、これまで以上にきめ細やかな技術的な支援を実施。



※1: 他律的な理由等により、上限以上が必要な場合は、個別に相談してください。
 ※: 水循環アドバイザー制度は計画作成後の、運用等にも活用が可能です。
 ※: 上記、利用回数の上限は、予算や応募状況等により、変更となる可能性があります。

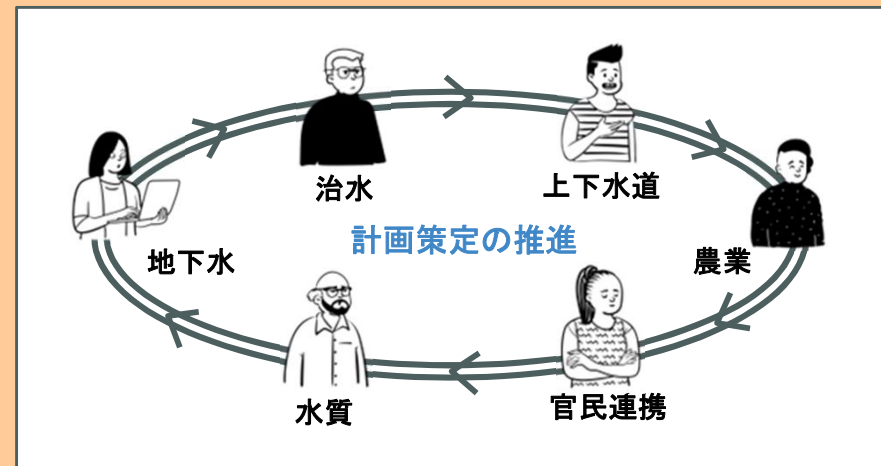
重点的な取組② 複数人のアドバイザーが連携した支援

【背景】

- 流域水循環計画に係る施策は多岐。
- 計画策定時は、地域の課題に応じた様々な分野の技術的助言も重要。

【方針】

- 流域水循環計画を作成しようとする地方公共団体に対し、2年間で6名(年間3名)※1のアドバイザーを、順次派遣。
- これにより、様々な分野の技術的助言を可能とする。



活用イメージ

4. 活用効果等について

- 水循環アドバイザー制度の活用について広く周知し、活用いただくことで、健全な水循環の維持・回復や流域マネジメントの取組の質の向上につなげていくことを目的に、シンポジウムを開催。
- 水循環アドバイザー制度を活用した地方公共団体から事例や活用効果を紹介いただくとともに、当該地方公共団体に派遣された水循環アドバイザーからアドバイスの視点について解説いただいた上で、水循環アドバイザーへの期待について議論がなされた。
- ここでは、シンポジウム当日の概要とともに、大阪府大阪狭山市、愛媛県松山市、福井県大野市での流域マネジメントの取組状況とともに、水循環アドバイザー制度の活用効果を紹介する。

水循環シンポジウム
「水循環をはじめる」
～水循環アドバイザー制度の活用効果～

参加費 無料

主催：内閣官房水循環政策本部事務局

2024年2月9日(金) 13:30～

申込URL <https://forms.gle/EK1Ag88i8wwHJMabA>

令和6年2月2日(金) 17:00〆切 ※会場参加は、定員(100名)になり次第終了させていただきます
水循環政策本部Webサイト内お知らせページ及び内閣官房水循環政策本部事務局Webサイト内「新着情報」でもご案内しています

会場 **fabbit会議室 丸の内カンファレンスルームA/オンライン併用**

プログラム

情報提供 「流域マネジメントについて」内閣官房水循環政策本部事務局

事例発表

- 「めぐる「水」とともに生きる大阪狭山」
大阪府大阪狭山市 水資源部 部長 三井雅裕 (OS, 9 流域水循環計画公表)
- 「節水型都市づくりの推進に向けて」
愛媛県松山市 総合政策部 水資源対策課 主査 越智美香子 (R3, 3 流域水循環計画公表)
- 「大野市の地下水とイトヨ」-水循環アドバイザー制度を活用した施設展示の更新-
福井県大野市 暮らし環境部 環境・水循環課 課長 田中九一郎 (O29, 1 流域水循環計画公表, R3, 7 改定)

パネルディスカッション 「水循環アドバイザー制度の活用効果」

パネリスト

- ・[水循環アドバイザー] 東京学芸大学 環境教育研究センター教授 吉富友春 (ファシリテーター)
- ・[水循環アドバイザー] 筑波大学 生命環境系教授 辻村真貴
- ・[水循環アドバイザー] 滋賀県 琵琶湖政策・MLGs推進担当理事 三和伸彦
- ・福井県大野市 暮らし環境部 環境・水循環課 課長 田中九一郎
- ・大阪府大阪狭山市 水資源部 部長 三井雅裕
- ・愛媛県松山市 総合政策部 水資源対策課 主幹 松本忠輝

CPD 建設系CPDプログラム申請予定

【注】報道関係者による現地取材は可能ですが、事前登録が必要です。詳しくは事務局までお問合せください

【問い合わせ先】水循環シンポジウム事務局(公益財団法人リバーフロント研究所)
藤井・後藤 mizu2023@rfr.or.jp

※受領確認メールが届かない場合は、TEL:03-6228-3861(藤井・後藤)までご連絡ください

開催案内



開会挨拶 片貝水循環政策本部事務局審議官



開催状況①



パネルディスカッション



開催状況②

水循環シンポジウム～水循環アドバイザー制度の活用効果～



事例発表① 大阪府大阪狭山市 三井氏



事例発表② 愛媛県松山市 越智氏



事例発表③ 福井県大野市 田中氏



パネルディスカッション状況①



パネルディスカッション状況②



パネルディスカッション状況③

- 大阪狭山市は流域水循環計画の策定、松山市は計画の改定、大野市は計画に基づく普及啓発という各段階において、水循環アドバイザー制度の活用について紹介。
- 外部のアドバイザーの活用によって、地元の方が気づいていなかった価値を伝えることも可能となり、地元の課題解決のきっかけとなる。
- 水循環アドバイザー制度をきっかけとして、アドバイザーを何かにつけて相談できる「かかりつけ医」のように活用いただくのも良いのではないかと。
- 流域水循環計画への取り組みの段階に応じて、地方公共団体におけるアドバイザーの活用方法も異なる。様々な段階にアドバイザーが関与できる点も、この制度の良さであることをPRするのも必要ではないかと。

水循環シンポジウム～水循環アドバイザー制度の活用効果～ 大阪府大阪狭山市①



大阪府大阪狭山市 水資源部 部長
三井雅裕

滋賀県 琵琶湖政策・MLGs推進担当理事 三和伸彦



▶ 事例発表：めぐる「水」ともに生きる大阪狭山（大阪府大阪狭山市 三井氏）

● 大阪狭山市の概要

- 大阪狭山市は大阪府の中南部に位置し、昭和40年代当初、南海電車の延伸とともに、大阪のベッドタウンとして、ニュータウン開発が進み発展。
- 市の中央に日本最古のダム式のため池がある。

● 大阪狭山市の課題

- 都市化による浸水の多発、市内の大小113のため池の存在、営農者の高齢化と管理者の減少、粗放化されたため池や水路が多いことから、池や水路から関心が離れている。
- 河川や池は、行政や水利組合等が管理しているため、安全の観点からも他人事になりがちである。

● 流域水循環計画の策定のきっかけ

- 狭山池を中心とした市民の活発な活動、ため池が多いこと、市の総合計画でも水をキャッチフレーズとしていることや、水に関して縦割り行政の問題も課題としてあった。
- 市における水に関する考え方を整理し、官民連携、縦割り行政の解消を目的として計画策定が始まった。

● アドバイザー派遣の経緯

- 規模は異なるが、中央に琵琶湖または狭山池があるという地形的なつながりから、琵琶湖の活動の資料や「マザーレイク21計画」の紹介などのアドバイスをいただいた。
- 水と共に生きる環境での計画の方向性が整理でき、計画に結びつくヒントが生まれて、自ら守る、生かす、生むという3つの柱を基に、8つの施策ができた。

● 今後の展望

- 計画をつくるだけでなく、今後どう進めていくかが重要。施策のカルテの作成や113あるため池のデータ整備、特定課題への対応、水マイスター制度等を検討中。

～水循環アドバイザー制度の活用効果～「大阪狭山市水循環計画」

4 本市水循環計画策定のきっかけ

- 市民・行政（府・市）・民間が狭山池周辺で活発に活動
- ため池の多いまち
- 『水』をキーワードとしたまちづくり（第五次大阪狭山市総合計画における将来像「水 ひと まちが輝き みんなの笑顔を未来へつなぐまち大阪狭山市」）
- 水循環基本法の制定、水循環基本計画が発表
- 防災面から整備する所管の違い（縦割り行政）

→

- 本市のまちづくりで『水』に関する考えを整理
- 官民連携
- 縦割り行政の解消

5 水循環アドバイザー制度の活用

- 近隣の市町村で流域水循環計画を策定した事例がなかった。
- 国（水循環政策本部）に相談し、アドバイザー制度の活用を紹介

→

滋賀県 琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課から先進事例として、琵琶湖を中心とした『マザーレイク21』などのご紹介をいただく

～水循環アドバイザー制度の活用効果～「大阪狭山市水循環計画」

6 アドバイザー制度の活用によって得られたもの

- 『水』と共に生きる環境での計画の方向性の整理ができた。
- 琵琶湖流域の市民との関わり方から、本市計画への発想のヒントが生まれる。

3つの柱

- 水から守る**：水害への対策を強化
- 水を活かす**：水資源を有効に活用
- 水を育てる**：次世代に水を継承

3つの柱は、未来の姿を達成するための、大きな方針を示したものです。

8つの施策

3つの柱に基いた活動です。各施策には多くの具体的な取組が盛り込まれています。

- 水と共生する環境づくり
- 水と共生する環境づくり
- 水と共生する環境づくり
- 水と共生する環境づくり
- 水と共生する環境づくり
- 水と共生する環境づくり
- 水と共生する環境づくり
- 水と共生する環境づくり

水循環シンポジウム～水循環アドバイザー制度の活用効果～ 大阪府大阪狭山市②

▶ パネルディスカッション：水循環アドバイザー制度の活用効果

● アドバイザー制度の活用効果（大阪府大阪狭山市 三井氏）

- 水の施策（下水道、ため池、農業水路）を1つで受け持つ部署はできたが、流域水循環計画の策定に向け、多様な分野の取り組みの整理で悩んでいた。
- 滋賀県の話聞き、規模は全然違うがそういう整理をしていこうということで、いろんなパズルのパーツを分解していき、令和4年度に計画ができた。

● アドバイスの視点（滋賀県 三和氏）

- アドバイザー派遣では、琵琶湖でやってきたことをお伝えする中に何かヒントがあればということで話をした。
- 滋賀県も平成11年度からの長期計画である「マザーレイク21計画」を流域水循環計画に位置づけ、その後、計画の終了に伴い令和2年度に「琵琶湖保全再生計画」に再整理している。
- 行政施策は「琵琶湖保全再生計画」で総合的に保全を進めていくこととし、一方で、行政以外の多様な主体の皆さんとの協働については、新たに「マザーレイクゴールズ」という仕組みをつくって、この両輪を進めていくこととした。そこに至る話をした。
- 行政、県民、企業、NPOなどはそれぞれ、同じ1つの「マザーレイクゴールズ」という太陽に向かって思い思いに枝や葉を伸ばす木や草の植物のようなもので、強制されてやるということではなく、それぞれの自発的な思いが、気がつくと、同じベクトルを向いているという話をした。

● アドバイスを受けた内容や計画に対しての今後の展望（大阪府大阪狭山市 三井氏）

- 計画に対する指標をつくって、計画の進捗管理が1つの課題。行政間同士で、他の所管を評価するというのがなかなか難しい。
- 水循環協議会でも、誰かが誰かを評価するやり方ではなく、情報を共有することで何かに協力できる形にすればという意見はあったが、まだ成熟していない。
- 琵琶湖での先進的な事例を参考にまた目指していきたい。

● 自治体に対しての今後の取組の期待、アドバイザー制度に対する期待（滋賀県 三和氏）

- 自治体のそれぞれの部局がそれぞれの施策でアプローチしていくことは、法律に基づいてやっている以上、当たり前である。一方、地域にあるものは、大きな歴史の中でいろんな人が関わって、大きな流れの中で現れてきたものである。そこに気がつき、関わっていくことを通して、自治体の中でもそれぞれの部局がつながっていく。
- 何かわくわくすることが、活動をつないだり継続していく一番大きな原動力。
- アドバイザー制度で、外の人からすごいとか面白そうといった反応を伝えることも、地域の方に発見の輪が広がるきっかけになるのではないかと。

水循環シンポジウム～水循環アドバイザー制度の活用効果～ 愛媛県松山市①



愛媛県松山市 総合政策部 水資源対策課
 主幹 松本忠輝 (写真左)
 主査 越智美香子 (写真右)

[水循環アドバイザー] 筑波大学 生命環境系教授

辻村真貴



事例発表：節水型都市づくりの推進に向けて（愛媛県松山市 越智氏）

● 松山市の概要

● 流域の地形は、川は短く山は急峻。降った雨がすぐ海に流れる。気候は、温暖な瀬戸内式気候であり、年間の降水量が全国平均より少ない。

● 松山市の課題

- 水源は石手川ダムと地下水。
- 石手川ダムは、建設当時の将来人口予想が、現在の人口規模に対して低く、非常に小さなダム。
- 地下水の取水も、これまでの地下水賦存量調査などにより、限界に近いという結果が出ている。
- 平成6年の大渇水時に124日間にわたる時間断水を経験し、市民生活や経済活動に大きな影響を受けた。その後も、渇水が度々発生している。

● 長期的水需給計画

- 平成6年の大渇水を受け、節水型都市づくりを進めるため、長期的水需給計画を策定。
- 現計画の目標年次が令和7年度であり、現在は改定時期を含め、慎重に検討しているところ。

● アドバイザー制度活用のきっかけ

● 節水型都市づくりの推進のための今後の取組みや気候変動などの近年の動向、新規水源確保策の検討等について、専門性が高いため、専門家の見解を伺いたいと考えていた。

● アドバイザー制度活用状況

- 東京大学の滝沢先生に、長期的水需給計画の水資源開発部分について、水を取り巻く情勢や個別の新規水源確保策等の助言をいただいた。
- また、雨水市民の会の笹川先生に、効果的な雨水の啓発活動の実施方法について助言をいただいた。
- 今年度は、筑波大学の辻村先生に、計画の改定に向けた準備として、過去の賦存量調査の活用、近年の動向を踏まえた取組、地下水流動の理解を深めるために、助言をいただいた。

課題: アドバイザー制度活用のきっかけ(令和5年度)

- 1 長期的水需給計画の改訂に向けた準備
 - 過去に行った様々な調査を基にしており、理解が困難
 - 近年の動向を受けて行うべき取組 (気候変動、リスク管理型の総合的な水マネジメントへの転換)
 - 2 新規水源確保策の検討
 - 地下水流動への理解について
 - 渇水への対応(時期的に地下水渇水が顕著)
- 筑波大学 生命環境系 教授 辻村 真貴 先生

アドバイザー制度の活用事例(令和5年度)

- ◆ 支援内容: 現地派遣・会議(11/29-30、2日間)
 - ◆ 1日目: 現地視察(市内浄水場・周辺井戸)
-
- ◆ 2日目: 会議(市役所内 会議室)
助言いただいた内容等をまとめた資料で説明 → ご助言
-

水循環シンポジウム～水循環アドバイザー制度の活用効果～ 愛媛県松山市②

▶ パネルディスカッション：水循環アドバイザー制度の活用効果

● アドバイザー制度の活用効果（愛媛県松山市 松本氏）

- 今年度は辻村先生に、現場レベルの経験則に関して、図面などを用いて地下水の流動等について詳しく教えていただいた。
- 先生から現場データの活用を提案されたが、データを活用したら何が分かるのか等、詳しく教えていただきたいと考えている。
- 先生と関係ができた点で、1つのきっかけづくりとして大変いい制度。今後も、先生との関係を続けていき、課題解決に向けて取り組んでいきたい。

● アドバイスの視点（筑波大学 辻村氏）

- 松山市としては、現行計画で示されている数値目標等を改定の段階でどうすべきかに関心があったが、数値目標自体が妥当かについては、当時の松山市の調査結果はしっかりしたものであるため、それを軽々に良い悪いとは言えない。
- 令和7年の改定に向け、数値自体をどう扱えばいいか迷っている段階で、何かもう少し言いたいといったところで時間切れとなってしまった。
- 妥当性を決めるのはアドバイザーではないが、様々な質問に答える形で、改定に向けて数値の考え方を一緒に考えていけるきっかけになった。

● アドバイザー制度について（愛媛県松山市 松本氏）

- アドバイザー制度は、内閣官房水循環政策本部事務局が仲介、費用も出してもらえる。先生との関係のきっかけづくりとして大変いい制度。
- 1回、2回のアドバイスでは、課題解決までは難しい。その後、先生との関係を続けていくかは各自治体の判断。松山市としては続けていきたい。
- 活用前は、アドバイザーとして著名な先生に来ていただくには、多くの人を呼ばなければとか、具体的な成果を上げなければとか、ハードルの高い制度と考えていたが、実際に活用してみて、担当としては本当に活用してよかったと思っている。

● 自治体に対しての今後の取組の期待、アドバイザー制度に対する期待（筑波大学 辻村氏）

- この制度をきっかけに、何かにつけて相談していただくような一種のかかりつけ医のように使っていただければいい。
- アドバイザーとしても、いろいろな地域の水循環の課題を知ることは非常にいい経験。アドバイザー自身も勉強になるので、十分にメリットがある。
- 質問に自分自身で答えられなければ、主治医がほかの病院を紹介するように、他の方を紹介することもできる。

水循環シンポジウム～水循環アドバイザー制度の活用効果～ 福井県大野市①



福井県大野市 暮らし環境部 環境・水循環課 課長
田中九一郎

[水循環アドバイザー]
東京学芸大学 環境教育研究センター教授
吉富友恭 (ファシリテーター)



事例発表：大野市の地下水とイトヨ-水循環アドバイザー制度を活用した施設展示の更新- (福井県大野市 田中氏)

● 大野市の概要

- ・大野市では、古くから湧水、清水（しょうず）を飲み水、生活用水として利用。
- ・淡水型のイトヨが生息。大野特有の湧水文化の象徴的な存在。

● 計画の策定について

- ・昭和40年代後半から産業の変化や高度経済成長等で地下水位が低下し、降雪期を中心に井戸枯れが発生。この井戸枯れを契機に、様々な地下水保全に取り組んできた。

● 本願清水イトヨの里

- ・本願清水も井戸枯れ、湧水量の減少時期を経て、市民活動によるイトヨ保護の機運が高まった。
- ・イトヨ生息地の環境改善や環境学習の場として、平成13年に「本願清水イトヨの里」が開館。
- ・整備後20年が経過し、生息地、学習施設ともに、様々な問題が発生し、大野市水循環基本計画でも本願清水イトヨの里の整備方針を示している。

● アドバイザー制度活用の経緯

- ・市では効果的な普及啓発の知見がなく、学習施設の展示などの更新設計に不足感があったため、水循環アドバイザー制度を活用し、吉富先生に展示更新の助言をいただいた。

● 助言内容

- ・展示で伝えたいポイント、順路と展示コーナーの表現方法を整理。
- ・色の統一性、色の選び方、デザイン選びの重要性、展示に使う書体、文字サイズの統一感。
- ・パネルのタイトルは3秒程度、サブタイトルは10秒程度、文章は3分程度で読めるようにする。
- ・昔の写真やイラストは、人を引きつけるので、パネルとして残したほうがいい。

● 助言を受けての対応

- ・展示で伝えるポイントを、イトヨの希少価値、大野市の水環境、イトヨの保全活動等に決定。
- ・展示の順番を改良。ゾーンごとに色分け。日本の伝統色を考慮した色選び。マグネット式のパネルを導入し、古い写真を交換して展示。
- ・リニューアル以降、来館者から展示が非常に見やすくなったという声をいただいている。

本願清水と本願清水イトヨの里の再整備 (設計・実施)

- 生息地「本願清水イトヨ生息地」 (令和2～3年度)
 - (1) 生息地内の泥土の体積
 - (2) 護岸の浸食、護岸石の崩壊
 - ① 実施設計の作成 建設コンサルタント業者
 - ② 生息環境の助言 本願清水イトヨの里 館長 森誠一 (岐阜協立大学 教授)
- 学習施設「本願清水イトヨの里」 (令和3～5年度)
 - (1) 展示品等の老朽化
 - (2) 展示内容が未更新
 - ① 実施設計の作成 建築コンサルタント業者
 - ② 教育・普及啓発の広報・情報発信が不足? 市に効果的に普及啓発を行う知見を有している者がいない

展示更新については専門的な知見に基づいた助言等が必要

↓

水循環アドバイザー制度を活用

水循環アドバイザー制度の活用 (R4. 7. 1)

○ 支援依頼内容 展示物更新に当たり、専門的な知見に基づいた助言の支援
○ 派遣アドバイザー 東京学芸大学 環境教育研究センター 吉富友恭 教授

- 全体について
 - ① 展示で伝えたいポイント
 - ② 順路と展示コーナーの表現方法
- 色、デザインについて
 - ① 使用する色の統一性、展示コーナー色の選び方
 - ② デザイン選びの重要性
 - ③ 展示に使う書体及び文字サイズの基準
- パネル内容について
 - ① 文章量と文章構成 (タイトル・サブタイトル・文章)
 - ② 昔の写真、イラストの有効利用

水循環シンポジウム～水循環アドバイザー制度の活用効果～ 福井県大野市②

▶ パネルディスカッション：水循環アドバイザー制度の活用効果

● アドバイザー制度の活用効果（福井県大野市 田中氏）

- 助言を受けて、館内をゾーンごとに色分けをして、現在地、順路を分かりやすくした。
- エントランスには、イトヨの雄と雌の模型を配置し、雄は婚姻色で生態行動が分かるように工夫した。
- パネルは、内容を小学校3年生の学習レベルとし、詳細はタッチパネルにする。年表も内容を更新し、伝えたい内容のみを表記。
- 反射する素材だったパネル素材を、つや消し素材にするアドバイスもいただいた。
- リニューアルによって、非常に見やすくなったとの声をいただいている。

● アドバイスの視点（東京学芸大学 吉富氏）

- 展示を見るときには、来場者の立場から、利用者目線で見るのが大事。
- そういう視点で見たときに、施設が伝えたいメッセージが展示にわかりやすく表現されているかどうかを現場で再確認した。
- 展示全体としては、来場者の動線をイメージしながら、情報を提示する順序や構成（ストーリー）を見直した。
- 個々の展示については、テキストやグラフィックに関するデザイン面を中心に、具体的な工夫の仕方についてお話しした。
- 展示で伝えたいことはできるだけポイントを絞って表現し、詳細な情報についてはデジタルコンテンツとし、来場者が自身の興味・関心に合わせて選べるように提示する方法を提案した。

● アドバイスを受けた内容や計画に対しての今後の展望（福井県大野市 田中氏）

- 市には、水の教育の学習研究の場として「越前おおの水のがっこう」という施設もある。
- 水環境の保全・継承と地域の水のブランド化を深めていくために、水の講座等を実施している。
- 吉富先生からいただいたアドバイスを参考に、越前おおの水のがっこうもイトヨの里と併せて、発展させていきたい。

● 自治体に対しての今後の取組の期待、アドバイザー制度に対する期待（東京学芸大学 吉富氏）

- 展示施設の集客に関しては、多くの人に関心をもってもらうために、発信する情報を更新していくことが大切。提案としては、講座や企画展のようなイベントを連続的に開催していくことがある。
- イベントを開催すること自体に集客の要素があるが、長期的な集客を考える上では、イベントの企画・検討段階から多くの人に関わってもらうことが重要。
- 企画・検討段階から参加を促すことで、協力者を増やすことができる。それがリピーターやボランティアスタッフの獲得にもつながる。そのような企画・検討段階から一緒に取組んだ人たちの発信力は大きい。
- アドバイザーとして声をかけていただけることはうれしい。実際の現場に足を運び、新しい課題に触れることができ、多くのことを吸収できる。
- アドバイザーの人選も、相談内容を伝えれば事務局の方で検討していただけるとのこと。決まっていなくても気軽に事務局に相談していただくと良い。